

公共施設のあり方（図書館関係）について

今後の方向性

1 現状

		〔西枇杷島〕 小田井 公民館	〔清洲〕 清洲市民 センター	〔新川〕 新川 公民館	〔春日〕 春日 公民館	合 計
床面積	(㎡)	164	145	51	515	875
蔵書数	開架	19,409	11,951	4,806	43,362	79,528
	閉架書庫分	—	—	—	26,000	26,000
	合計	19,409	11,951	4,806	69,362	105,528
閲覧者数	(人)	5,619	5,139	1,248	14,077	26,083
貸出者数	(人)	5,802	3,926	753	6,803	17,284

※平成21年度実績

2 公共施設のあり方基本方針における図書館の基本方針

美術館・図書館（図書室）・博物館は、教育・文化の拠点として、市民の豊かな生涯学習社会を支援していくための施設です。基幹的で高度な機能が求められ、かつ、本市はコンパクトな市域であることから「全市的施設」に位置付けます。

(略)

また、現在、本市に図書館はありませんが、本市を除く県内すべての市で図書館を設置しており、町村においても6割以上で図書館を設置していることから、本市においても**既存施設の活用も含めた図書館の整備に向けた取組みを進めます**。なお、現在の図書室は、廃止の方向で検討するとともに、廃止した場合に生じる空きスペースの有効活用についても研究してまいります。

3 図書館として整備する既存施設の考え方

① 現図書室の拡張余地等

拡張余地がある施設は、春日公民館のみ。

② 公共施設の改修余地等

公共施設のあり方基本方針において、再編対象外（平成年代に建設）とし、かつ改修余地が確保できる公共施設は、アルコ清洲とはるひ保健福祉センターの2施設。

4 既存施設を活用した図書館の整備イメージ

		①春日公民館	②はるひ保健福祉センター	③アルコ清洲
整備方法		郷土資料室を転用	多目的ホール以外を転用	3階ふれあい健康ルーム等を転用
現図書室面積 (㎡)		515.00	—	—
拡張面積		276.00	2,400.00	410.00
新図書館面積		791.00	2,400.00	410.00
蔵書可能冊数	開架	75,000	90,000	春日公民館を拡張した面積(791㎡)に満たないため、検討対象から除外する。
	閉架書庫	26,000	57,000	
	合計	101,000	147,000	

○人口類似団体との比較

団体名	人口 (千人)	図書館 職員数	床面積 (㎡)	蔵書数		
				開架	閉架書庫	合計
知立市	65	16	2,477	94,000	105,000	199,000
豊明市	66	22	2,923	120,000	140,000	260,000
津島市	66	10	5,900	111,000	117,000	228,000
北名古屋市(2館)	79	32	4,227	143,000	134,000	277,000
愛西市(3館)	66	16	2,606	138,000	34,000	172,000
清須市 ①案	65		791	75,000	26,000	101,000
②案	65		2,400	90,000	57,000	147,000

※職員数には非常勤・臨時職員を含む

【整備案の比較】

整備案	比較内容	評価
①案 春日公民館を拡張	<ul style="list-style-type: none"> 耐震性はあるものの、建設から20年が経過(平成3年建設)し、近い将来において、大規模改修の必要が生じる恐れ。 現在の4図書室の蔵書は、ほぼ収容できるが拡張余地はない。 	△
②案 はるひ保健福祉センターを転用	<ul style="list-style-type: none"> 平成11年の建設であり、老朽化は進行してない。 春日公民館を拡張する案に対して、約3倍の床面積を確保できるため、閲覧コーナーの充実や、くつろぎの空間を確保できる。 はるひ美術館と併設することから、文化の拠点施設となる。 	○

【方針】

総合的な観点から、②案の「はるひ保健福祉センター」を転用して整備